

アンケート調査による信号機設置に関する住民意識の把握
 交通量増大地域における歩行者の交差点横断の安全性向上を目的とした
 住民主体の交通実態の把握とその改善計画立案の支援 その1

住環境	住民主体	アンケート調査	準会員	○伊藤 澄人*1	正会員	登崎 涼 *2
信号機	交差点	歩行者	正会員	上野 徳久*3	正会員	三浦 昌生*4

1. はじめに

住民が住環境に不満や不安を抱えて改善したいと考えても、住民の力だけで住環境の実態を正確に把握し改善することは容易ではない。そこで研究室では、住民主体の懇談会やアンケート調査を行い住環境に対する意識の向上を図りながら、住民が自らの手で行う住環境改善活動の支援を目的とした協働活動を行っている。

本研究では、埼玉県草加市の柿木町会と研究室との協働によるアンケート調査を通じて信号機設置に関する住民意識を把握し、信号機設置に向けた活動の支援を行う。

2. 対象地区の概要



図1 柿木町会とその周辺の地域

柿木町会は埼玉県草加市の北東部に位置しており、越谷レイクタウン駅から徒歩30分ほどの場所にある。町会加入世帯数は422世帯で、加入率は95%である。地区内

には国道4号線(東埼玉道路)と県道102号線(平方東京線)が南北に通っているが、平成20年に越谷レイクタウンができて以降交通量が増加している。

3. 調査地点の決定

柿木町の小学生のほとんどは川柳小学校へ通っており、その通学路は平方東京線を南下して地点Aの横断歩道で平方東京線を横断するものである。しかし地点Aの交差点には歩行者用信号機がない。小学生の登校時間帯は保護者が旗振りを行っているが、交通量が多い道路を横断するため保護者や住民は危険を感じており、町会ではかねてから歩行者用信号機の設置を望んでいる。

地点Bの交差点には横断歩道はあるが信号機はない。しかし平方東京線は上下線ともに交通量が多く車の流れがなかなか途切れないため、渡りはじめるまでに時間がかかってしまう。そこで町会ではかねてから地点Bに手押し式信号機の設置を望んでいる。

地点Cも地点Aと同様に小学生が通学路として利用するにもかかわらず歩行者用信号機がない。また地点Cの交差点を右折する車両が多いが、平方東京線は交通量が多く車の流れがなかなか途切れないため、町会からは右折専用信号機を必要とする声も挙がっている。

4. 第一回懇談会

2015年10月4日に第一回懇談会を開催し、住民26名、学生5名、教授1名の計32名が参加した。活動の趣旨や流れを説明した後に住民と学生が5班に分かれてワークショップを行った。ワークショップ



図2 ワークショップの様子

では、住環境について不満を感じていることを地図に自由に書き込んでいく形式を採った。活発な議論がなされ、地点A・B・Cの交差点に関する意見が多く挙がった。

5. 町会住民対象のアンケート調査

5.1. アンケート調査の概要

柿木町会に加入する全422世帯を対象に、2015年11月1日～11月10日でアンケート調査を行った。回収部数は269部で、回収率は63.7%であった。地点A・Cの交差点

Grasping residents' awareness concerning installing of traffic signal by questionnaire survey
 Support of grasping the actual state of the traffic and the making improvement plan by residents' initiative aimed at enhancing safety for pedestrians' crossing of intersections in the area where traffic volume is increasing Part 1

ITO Sumito, TOZAKI Ryo, UENO Norihisa and MIURA Masao

についての問は、川柳小学校へ通う子どもがいる家庭の場合はその子どもの立場から、いない場合は回答者自身の立場から回答する形式とした。また地点 A・B・C を徒歩で「日常的に利用する人」と「日常的には利用しない人」に分けて集計した。

5.2. 地点 A に関するアンケート調査の結果

「横断歩道を徒歩で利用する際危険に感じた経験はどのようなものでしたか」と尋ねたところ、図 3 の回答結果が得られた。日常的に利用する人の 83% が「渡ろうとしているにもかかわらず車が曲がってきた」と回答した。

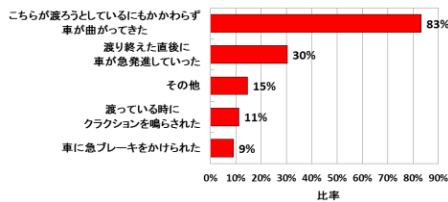


図 3 「地点 A の横断歩道を徒歩で利用する際危険に感じた経験はどのようなものでしたか」の回答結果 (複数回答可、N=89)

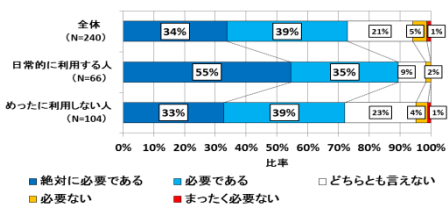


図 4 「地点 A の交差点に歩行者用信号機は必要だと思いますか」の回答結果

次に「交差点に歩行者用信号機は必要だと思いますか」の回答結果を図 4 に示す。全体の 73%、日常的に利用する人の 80% が「絶対に必要である」「必要である」と回答した。

5.3. 地点 B に関するアンケート調査の結果

「横断歩道を徒歩または自転車で利用する際、危険に感じた経験はどのようなものでしたか」と尋ねたところ、図 5 の回答結果が得られた。日常的に利用する人の 83% が「渡ろうとしているのに車がスピードを落としてくれなかった」と回答した。

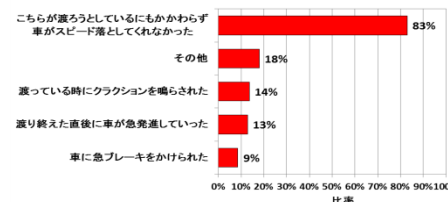


図 5 「地点 B の横断歩道を徒歩または自転車で利用する際危険に感じた経験はどのようなものでしたか」の回答結果 (複数回答可、N=117)

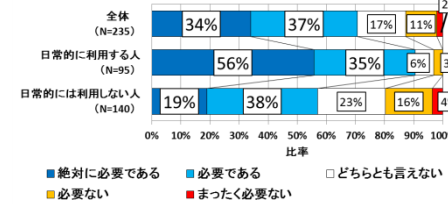


図 6 「地点 B の交差点に手押し式信号機は必要だと思いますか」の回答結果

次に「交差点に手押し式信号機は必要だと思いますか」の回答結果を図 6 に示す。全体の 71%、日常的に利用する人の 91% が「絶対に必要である」「必要である」と回答した。

した。

5.4. 地点 C に関するアンケート調査の結果

「交差点に右折専用信号機がないことをどのように感じていますか」の回答結果を図 7 に示す。「車の流れがなかなか途切れず右折に時間がかかるため不便」が 56%、「赤信号に変わっても右折してくる車がいるため危険である」が 51%、と回答した。次に「交差点に右折専用信号機は必要だと思いますか」の回答結果を図 8 に示す。「絶対に必要である」「必要である」が全体の 76% となった。

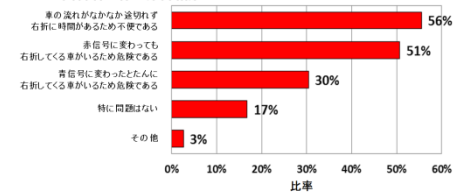


図 7 「地点 C の交差点に右折専用信号機がないことをどのように感じていますか」の回答結果 (複数回答可、N=227)

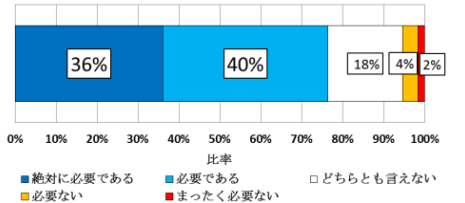


図 8 「地点 C の交差点に右折専用信号機は必要だと思いますか」の回答結果 (N=242)

次に「交差点に右折専用信号機は必要だと思いますか」の回答結果を図 8 に示す。「絶対に必要である」「必要である」が全体の 76% となった。

次に「横断歩道を徒歩で利用する際、危険に感じた経験はどのようなものでしたか」の回答結果を図 9 に示す。日常的に利用する人の 82% が「渡ろうとしているのに車が曲がってきた」と回答した。

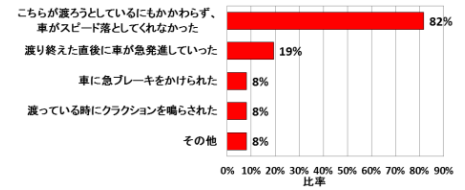


図 9 「地点 C の横断歩道を徒歩で利用する際危険に感じた経験はどのようなものでしたか」の回答結果 (複数回答可、N=88)

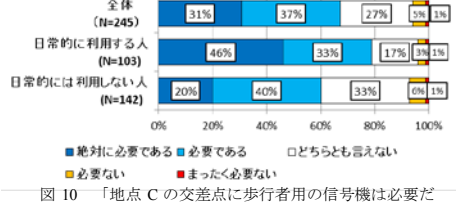


図 10 「地点 C の交差点に歩行者用の信号機は必要だと思いますか」の回答結果 (N=245)

次に「交差点に歩行者用信号機は必要だと思いますか」の回答結果を図 10 に示す。全体の 68%、日常的に利用する人の 79% が「絶対に必要である」「必要である」と回答した。

6. まとめ

懇談会やアンケート調査を通じて、多くの住民が信号機の必要性を感じていると分かった。今後は、それらを通じて得られた意見を交通量実測やそれに基づく改善案の立案へとつなげていく。

*1 芝浦工業大学学部生
*2 経済産業省 (当時芝浦工業大学学部生)
*3 八千代エンジニアリング株式会社 (当時芝浦工業大学学部生)
*4 芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 教授・工博

*1 Bachelor Student, Shibaura Institute of Technology
*2 Ministry of Economy, Trade and Industry
*3 Yachiyo Engineering Co., Ltd.
*4 Prof., Dept. of Architecture and Environment Systems, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.